

「昨年の1月まで本校に留学をしていた Maria Eduarda GUIMARAES DI GIACOMO さんのホストファミリーを引き受けてくれていた 66 期生徒の保護者様より「ホストファミリー体験談」を寄稿していただきました」

せっかく南高校という恵まれた学校に入学したのだからやってみよう、面白そう、きっとみんなのいい経験になる！と思い、私が家族に声をかけたのがきっかけでした。そして、ごく普通の 5 人家族の我が家がホストファミリーとなり、2019 年 8 月末から 5 か月間ブラジルからの留学生として高校 2 年生の女の子、ジャコモを受け入れることになりました。

ところが実際は、家族に留学経験のある者もおらず、留学生を受け入れるのも全くの初めてで、あまりイメージもわからず、具体的な不安でさえもあまり思い浮かばなかったのですが、先生方や WYS 教育交流日本協会の方が丁寧に対応してくださり、不安よりもだんだん楽しみの方が大きくなっていったのを覚えています。

ホストファミリーは英語がしゃべれないといけないと思っている方がいるかもしれませんが、我が家は誰も英語がペラペラではありません。最初はスマホを片手に英語と日本語でなんとかコミュニケーションをとっていましたが、5 か月経つと、日常会話のほとんどを日本語でしていたと思います。毎日学校で友だちや先生方と過ごすうちに彼女の日本語がどんどん上達していくのに驚くのと同時にとても嬉しかったです。

また、ブラジルという国について、私たちがもっているイメージと彼女から教えてもらうブラジルは全然違っていたり、普段当たり前に思っていることに「なぜ？」と言われて戸惑いながらも自分たちの生活や考え方について改めて考えることも多かったと思います。

ホストファミリーと聞くと、ちょっと大変そうかも、荷が重いなと思うかもしれませんが、もちろん、言葉、食事、生活習慣の違いなど大変だと思うこともあると思います。でもそれ以上のことを、個人ではなく家族みんなで経験することができます。自分たちのことや国について家族で話すことなど、それまでの我が家ではほとんどありませんでしたので、とても貴重な時間でした。地球の裏側からやってきた底抜けに明るい留学生のジャコモとの 5 か月間は、私たち家族にとってかけがえのない時間となりました。このような機会をくださった南高校の先生方に感謝いたします。

66 期生徒保護者